

7.子ども食堂に流れる時間を 天白子ども食堂とマンナ子ども食堂の比較を中心に

増田千栄

本稿の目的は、天白子ども食堂とマンナ子ども食堂に参加し参加人数の違いはもちろんのこと、時間の流れ、目的などの違いを感じた。各子ども食堂のつながりマップと時間表をもとに二つの子ども食堂を比較する。比較した上で改めてどのような子ども食堂なのかを紹介する。

1.始めたきっかけ

天白子ども食堂を運営している佐藤浩子さんと佐藤博文さんは親子である。お2人は東北出身で東日本大震災後、愛知に避難してきた。仙台市で被災したとき、地域のコミュニティづくりやボランティア活動が大切だと痛感した。地域で子どもたちにできることはないかと考えていた矢先に、子ども食堂がメディアで取り上げられていた。その時にわいわい子ども食堂に見学に行った。これをきっかけに、天白子ども食堂を立ち上げることになった。

2.開催日時、メニュー

第1回の天白子ども食堂は、2016年4月23日にオープンした。その時のメニューは、特製豚汁であった。

第2回 2016年5月8日 参加者27名

メニュー：カレー、オニオンリング、サラダ、ゼリー

差し入れ：シフォンケーキ

玉ねぎや甘夏、お菓子の寄付

第3回 2016年6月12日 34名

メニュー：チキンピラフ、とうふグラタン、ポテトサラダ、コンソメスープ、飲むヨーグルト

差し入れ：お菓子

第4回 2016年7月9日 参加者37名

メニュー：なんちゃって蒲焼丼、ポテトサラダ、茶わん蒸し、果物

差し入れ：玉ねぎ、2千円（著名者）、1万円（著名者）、果物やおやつ（おやつクラブ）

ボランティアの数が4名と少なく、危ぶまれたが、小学6年生の女の子に調理を手伝ってもらい保護者の方々が受付をしてくださったりした。小学生は「普段あまり料理したことがなかったから楽しかった」と言ってくれた。このような声を聞き、ボランティアだけで成り立たせるのではなく、参加者に手伝ってもらうことで、子ども食堂を継続できるのだと

感じた。

第5回 2016年8月7日 参加者26名

メニュー：そうめん、てんぷら、きゅうりの浅漬け、ゼリー
絵本の読み聞かせのボランティアが2名

第6回 2016年9月11日 参加者22名

メニュー：五目そうめん、とりの磯辺上げ、チュップドサラダ、お月見団子、ゼリー

第7回 2016年10月15日 参加者11名

メニュー：手作りパン、わかめサラダ、スープ、デザート

東海学園大学、愛知教育大学、名古屋市立大学の学生がボランティアとして参加。

第8回 2016年11月13日 参加者30名

メニュー：炊き込みピラフ、ハンバーグ、カニグラタン、わかめスープ

第9回 2016年12月17日 参加者40名

メニュー：カレー、トマトサラダ、コーンスープ、ケーキ

ケーキは山崎製パンさんからいただいたもの。

この回では、天白フリモに取り上げていただいたおかげで、参加者が増えた。

第10回 2017年1月21日 参加者34名

メニュー：手巻き寿司、茶わん蒸し、どら焼き

どら焼きは、参加者の方々とホットプレートで生地を焼き、あんこやクリームをはさんで食べた。

11時から、ミュージックベルグループの「ソネット」さんによる演奏が行われた。子どもたちも演奏に加わり、ドレミの歌を演奏した。

第11回 2017年2月12日 参加者17名

メニュー：あんかけチャーハン、味付け卵、フライドポテト、酢味噌和え、味噌汁、牛乳寒天

差し入れ：イチゴ（著名者）

第12回 2017年3月12日

第13回 2017年4月15日

第14回 2017年5月14日 参加者35名 ボランティア15名★

メニュー：カレーライス、オムレツ、ほうれんそうの胡麻和え、プリン

差し入れ：飲み物（ボランティア）、バームクーヘン（おやつクラブ）、卵（(株) クレス

ト)、かぼちゃ・玉ねぎ・イチゴ (丸小青果)、肉 (著名者)

手作りおやつ：パン

ライオンズクラブの方々がお見えになり、寄付金をいただいた。

中日新聞の記者も参加。

第15回 2017年6月13日 参加者20名 ボランティア18名 ★

メニュー：豚丼、ポテトサラダ、きのこのバター炒め、味噌汁、白玉ぜんざい、スイカ
差し入れ：白玉粉 (著名者)、玉ねぎ・にんじん・トマト・きゅうり・じゃがいも (丸小青果)、豚肉 ((株) クレスト)

手作りおやつ：白玉団子

第16回 2017年7月9日

メニュー：煮込みハンバーグ、サラダ

第17回 2017年8月5日

メニュー：五目そうめん、鶏のから揚げ、かぼちゃの煮つけ

第18回 2017年9月10日

メニュー：チキンライス、オムレツ、サラダ、パンプキンスープ

差し入れ：豚肉・卵 ((株) クレスト)

第19回 2017年10月1日

メニュー：しゃぶしゃぶサラダ、煮卵、大根と油揚げの煮もの、かきたま汁

手作りおやつ：シュークリーム

シュークリームは、焼きあがった生地にフルーツや生クリームを盛り付けた。

第20回 2017年11月19日 参加者35名 ボランティア19名

メニュー：ミックスフライ、煮もの、ごはん、味噌汁、フルーツ

手作りおやつ：スイートポテトパイもどき

手作りおやつは、餃子の皮にいただいたサツマイモで作ったスイートポテトを包んでパイ風に仕上げた。

第21回 2017年12月10日 参加者43名 ボランティア15名

メニュー：クリスマス特別メニュー、バイキング

山崎製パン従業員組合の方が3名参加し、クリスマスケーキの差し入れをしていただいた。子ども達もいつも以上に喜んでいた。

第22回：2018年1月14日 参加者 ★

メニュー：お正月特別メニュー、太巻き寿司、いなり寿司、さつまいものレモン煮、里芋とひき肉の甘辛煮、茶碗蒸し、イチゴ

3.参加者・ボランティア

以下の記録は、第1回から第21回の参加者・ボランティアの人数をグラフ、表にして示したものである。

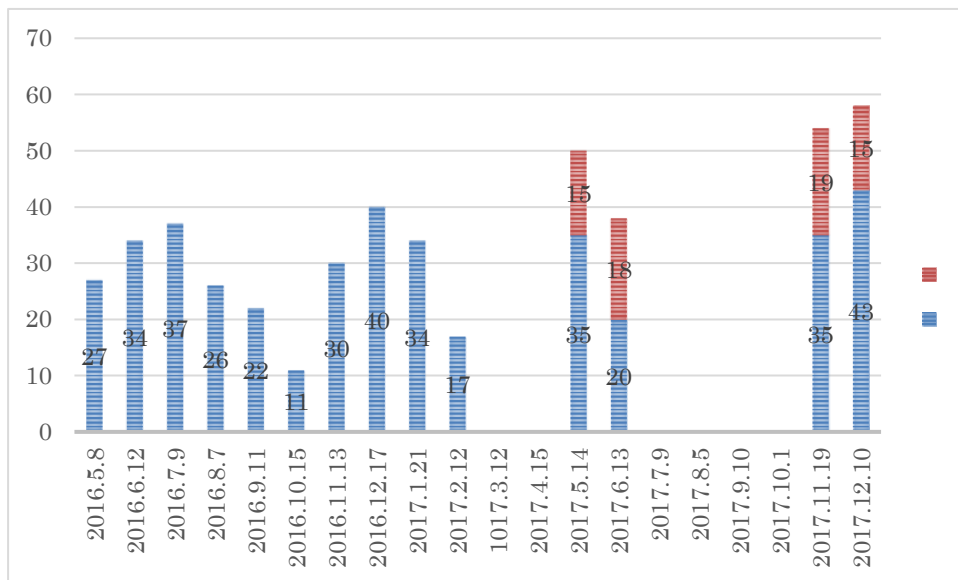


図1.参加者・ボランティアの人数

開催日	参加者	ボランティア	開催日	参加者	ボランティア
2016.5.8	27		1017.3.12		
2016.6.12	34		2017.4.15		
2016.7.9	37		2017.5.14	35	15
2016.8.7	26		2017.6.13	20	18
2016.9.11	22		2017.7.9		
2016.10.15	11		2017.8.5		
2016.11.13	30		2017.9.10		
2016.12.17	40		2017.10.1		
2017.1.21	34		2017.11.19	35	19
2017.2.12	17		2017.12.10	43	15

表1. 参加者・ボランティアの人数

平均的な人数は30人くらいである。初回よりはだんだん人数はふえているが、50人までに達することはない。ただ40人を超えている月もあるし、20人の月もあるため、食材の分量を考えることはかなり大変のように見える。実際に、私が参加した時は、料理が余ってしまい、ボランティアに来ていた方で分け合っていた。余ることは参加者に関係しないので良いが、食材が足りなくなったら参加者に料理を提供することができず、経営側も参加者側もいい思いをしない。

ボランティアの数は大体 20 人前後で調理をする方、子どもと遊ぶ方と分ければちょうどいいくらいだと思う。ボランティアの数はあまり大幅な変化は見られないため、安定している。

4.参加者の主な住居地

天白区の住民が主となっている。

植田、原、平針から来る方が多い。

また、ボランティアの方は、野並から来ている方もいた。

5.天白子ども食堂が抱えている問題

天白子ども食堂で抱えている課題は、人数や食材の数が把握できないこと、水源、調理器具の不足である。

人数の把握ができない問題はどこの子ども食堂でも取り上げられていると思う。天白子ども食堂でも人数の把握ができないことが問題とされている。少ないときは20人前後、多いときには50人を超えるときもある。余る分にはボランティアの方に持って帰ってもらうことができるが、足りないとなると困ってしまう。人数の把握ができないことが一番の悩みだと佐藤さんは話す。また、天白子ども食堂は原駅のビルである在宅サービスセンターで開催されているが、水源が一つしかない。場所の広さは十分なスペースであるがボランティアの方も10人は超える数いる中で水源一つでは手を洗うだけでも足りない状況であった。調理器具も大量の食材があるため、鍋、ボウルが足りず、何度も使いまわしているところを目にした。本来は鍋を使って調理するが、鍋が足りずフライパンを利用していることもあった。ボランティアの方の中には自分の包丁を持ってくる方もいた。また、炊飯器もふたつ家庭用のものだが、毎回9合を3回炊いている。一度炊いたお米を桶に出すため、保温ができない。白米が冷めてしまっている。さらに火元も家庭にあるようなIHキッチンなため大量の調理には少し苦労しているようだった。このような調理器具不足も問題のひとつである。

6.問題の解決策

人数を把握できない問題に関しては今後あいち子ども食堂ネットワークで話し合っている解決策を見つけるべきである。中京大学成ゼミの講義でも解決策を考えることが、さらに子ども食堂をよくすることにつながる。

水源不足、調理器具不足の問題については、天白子ども食堂に寄付していただいている方などの力を借りて、増やしていく。食材の寄付や寄付金の募集と同時に調理器具も募集したらいいのではないかと考える。1月14日に開催されたときもボランティアの方が使わないパン焼き機を譲ると言って他のボランティアの方が頂いていた。そのように調理器具も増やしていくことがひとつの解決策だと考える。

7.天白子ども食堂とマンナ子ども食堂のつながりマップ

天白子ども食堂



図 2 天白子ども食堂つながりマップ

図2を見て、まず、天白子ども食堂はfacebookを中心に情報提供をしている。初めの外部からの寄付は、おてらおやつクラブさんからお菓子を頂いた。吉田農園さんからデコパン、(株)クレストさんからはたくさんの卵やお肉、丸小青果さんからは野菜や果物などの差し入れをもらっている。また、クリスマスには山崎製パンさんから大量のクリスマスケーキをもらった。ほかにも差し入れをしてくれる著名者さんがいる。暮らしを耕す会という会があり、入会している人は入会費を収めている。その暮らしを耕す会さんは無農薬のお米をいつも寄付してくれている。寄付金をくれる方が予想以上にいて、そのお金で天白子ども食堂は成り立っている。名古屋中村ライオンズクラブ(LC、中区)の方が主となる。差し入れをしていただいている署名者さん、企業がどんどん増えていてかなり助かっている。

また農家とつながっていて、区役所とコンタクトをとってくれている。そこで10月に区長さん(山田茂夫さん)が天白子ども食堂を訪ね、ブログに書いてくれた。

私が行ったときには偶然名古屋中村ライオンズクラブ(LC、中区)の方が来ていて、寄付金をもらった。新聞記者も来ていたため、次の日に記事になり、天白子ども食堂もまたさらに広がるきっかけになった。また、寄付金をもらったことで食材徴収にも少しは余裕ができた。調理器具も新たに増やすことができそうだと佐藤さんも喜んでた。

あいち子ども食堂ネットワークのホームページは私が行くきっかけとなった。あいち子ども食堂ネットワークをもっと世間に広めれば子ども食堂はもっと広がり、寄付の数も増えていくと予想される。

マンナ子ども食堂



図 3 マンナ子ども食堂つながりマップ

図 3 を見ると、マンナ子ども食堂はキリスト教会が開催地となっている。山田学区や中小田井学区の小学生、中学生の参加が多くみられる。情報提供は facebook が中心となり、チラシ配りも行っている。規模はあいち子ども食堂ネットワークの中でも大きい子ども食堂である。

また、差し入れはセカンドハーベストさんから水やお菓子などを頂いている。畑をしている方からの野菜の提供もある。マンナ子ども食堂は、子ども食堂の中でも大きい子ども食堂なため、警察署や保健所など公共施設とのつながりもある。

○天白子ども食堂とマンナ子ども食堂を比較して

二つの子ども食堂に参加させていただいて、第一に感じたことは、人数、子ども食堂の規模の違いであった。天白子ども食堂は 30 人くらいの参加者に対し、マンナ子ども食堂は 100 人前後の参加者である。開催されている場所の広さにも違いが感じられる。食事を提供し、折り紙やあやとりなど行っていることは同じだが、人数が違うことによって賑や

かさも変わってくる。人数が違い、規模も違うからと言って多いほうが良いというわけではないと二つの子ども食堂に参加して感じた。それぞれの子ども食堂には個性がある。天白子ども食堂はボランティアみんなで協力し調理をして子どもたちともおやつ作りをしている。協力した上でボランティア同士の料理のアドバイスなどにもなっていて、ただ作るだけでなく何かを得て帰ることができる。マンナ子ども食堂は子ども同士が仲良く遊べるような居場所を感じた。繋がりマップを見ると、マンナ子ども食堂は自治体関係が多いように見受けられる。警察署や保健所ともつながっていて、学区の自治体にもつながっている。参加者が多いことは自治体の繋がりも関係していると思う。また、天白子ども食堂は様々な企業とのつながりが多い。山崎製パンさんや(株)クレストさんなどの協力があるからこそ、いまでも続けられているのだと思う。ネットワークを通じて食材の寄付があり、取りに行くことが大変と耳にしたため、佐藤さんに聞いてみたところ、たしかに大変ではあるが天白子ども食堂自体に寄付してくださる方がいるからそれでやっていける、そんなに食材調達に困っているわけではないと話していた。子ども食堂は、誰かしら、何かしらの協力の積み重ねで出来上がっていることを深く感じた。

8.天白子ども食堂とマンナ子ども食堂の時間の流れ

天白子ども食堂		マンナ子ども食堂	
9:30	集合・調理開始	17:00	食事・遊び(参加者)
10:00	子ども食堂開始		
11:00	手作りおやつ作り	18:30	食事(ボランティア)
12:00	食事開始(参加者)		
12:20	食事(ボランティア)	19:30	受付終了
		19:45	片付け
13:00	片付け		
14:00	解散	20:30	解散

図4 天白子ども食堂とマンナ子ども食堂タイムスケジュール

図4では天白子ども食堂とマンナ子ども食堂の時間の流れを示している。

天白子ども食堂では、9:30にボランティアが集合し来た人から進んで調理に取り組む。10:00から受付が開始し、子ども達は折り紙や風船で遊び始める。11:00頃から子ども達でもできるような白玉団子作りやパン作りが始まる。子どもがおやつ作りをしている最中も調理は続きだいたい12:00頃に料理が完成する。12:00から参加者(子ども・保護者)が食事をはじめ、次第にボランティアも食事をはじめ。参加者・ボランティアは同じ机で食事をする。12:30~13:00にかけ片付けに入り、参加者も帰りはじめる。洗剤、机の整理などボランティアの方々が手分けして片付けをし14:00くらいには解散をする。

マンナ子ども食堂では、事前に食事が作られており、作られている時間は把握していな

い。17:00 から子ども食堂ははじまっている。私は授業の関係で 18:00 頃から参加しているが、ついた頃には毎回参加者が食事をしている。食事はおぼんをもって左方向に移動しおぼんに食事が乗っていく形式となっている。私は受付の手伝いをしているが、ボランティアの方々は、外で駐車場の整備、中で食事を配膳、奥の部屋で子ども達と遊ぶことなどを行っている。ある程度食事をする参加者が減ってきたらボランティアの方々も食事に入り参加者と同様に食事を取る。食事の際に参加者とコミュニケーションをとったりボランティア同士がコミュニケーションを取ったりする。受付は 19:30 に終了し参加者も徐々に帰りはじめる。19:45 頃から片付けをしはじめる。洗い物は食事の際にも行われている。洗い物以外に机の位置や椅子の位置を元に戻す、床の掃除機かけが行われ大体 20:30 に解散する。

この時間の流れから天白子ども食堂では、食事や遊びだけに集中するのではなく、子ども達は遊びながら手作りおやつ体験をしたりしている。また、ボランティアの方々は食事を提供するだけでなく、子ども達と遊んだり食事作りに参加し料理教室のように教えあったりすることもある。マンナ子ども食堂では食事は出来上がっていて、我々学生のボランティアは食事の提供や受付を行う。子どもや参加者さんたちと同様に食事をし、子ども達と遊ぶ流れになる。子ども達は和気藹々としていて小学校や中学校の延長線上のように感じ、放課後友達と遊んでいるように感じた。どちらの食堂にもオリジナリティーがあり、雰囲気も全く違った。天白子ども食堂では、開催場所がビルの 3 階であることもあり、室内で折り紙や風船などで落ち着いて遊んでいる。一方マンナ子ども食堂は平屋であり、室内で子ども達が楽しそうに追いかけてっこをしている姿を目にする。人数が多く、同じ学校同士や友達同士で来る方も多いため活発な子が多いように見えた。

両食堂ともそれぞれが創り出した雰囲気があり、やり方も違っている。また、抱えている問題で共通しているところは人数の把握ができないことであった。この問題に関しては今後あいち子ども食堂ネットワーク全体の課題になると考えられる。また、ゼミでもみんな考え、いい案がでたら報告をしたいと考えている。これからも 2 つの子ども食堂への参加を続け、楽しみながら地域の方々とのつながりを広げていくと共に各子ども食堂で抱えている問題に寄り添って対策を練っていきたい。また、本稿では、私自身からの目線で見ているため、子ども達の意見を聞くことができなかった。今後は子ども達に意見を聞き、両子ども食堂はどのような食堂とみられているのかを確認していきたい。